

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

## 【資産、負債、純資産の状況】

(単位:億円)

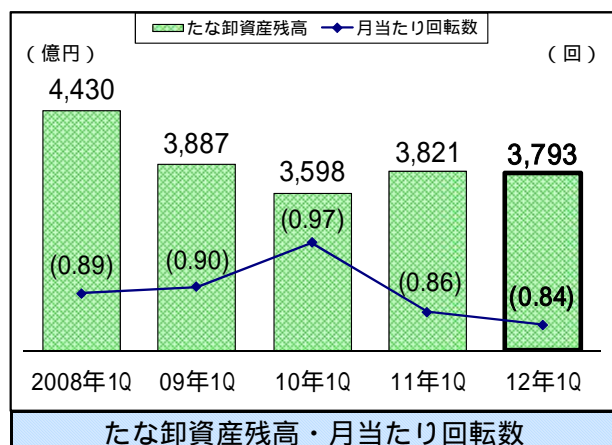
	2011年度 (2012年3月31日)	2012年度 第1四半期 (2012年6月30日)	増 減	2011年度 第1四半期 (2011年6月30日)
流動資産	17,017	16,535	481	16,884
(現金及び預金並びに有価証券)	(2,739)	(3,739)	(999)	(3,812)
(受取手形及び売掛金)	(9,013)	(6,975)	2,037	(7,259)
(たな卸資産)	(3,341)	(3,793)	(452)	(3,821)
固定資産	12,437	12,102	334	12,437
(有形固定資産)	(6,409)	(6,272)	(136)	(6,321)
(無形固定資産)	(2,302)	(2,227)	(75)	(2,432)
(投資その他の資産)	(3,724)	(3,602)	(122)	(3,684)
資産合計	29,455	28,638	816	29,321
流動負債	14,174	14,146	28	14,423
(支払手形及び買掛金)	(6,177)	(5,052)	(1,124)	(5,093)
(短期借入金及び1年内社債)	(1,289)	(3,048)	(1,759)	(2,908)
(未払費用)	(3,425)	(2,889)	(535)	(2,826)
固定負債	5,614	5,327	287	5,732
(社債及び長期借入金)	(2,522)	(2,381)	(141)	(2,574)
(退職給付引当金)	(1,804)	(1,714)	(90)	(1,804)
負債合計	19,789	19,473	315	20,156
株主資本	9,260	8,920	339	8,732
その他の包括利益累計額	850	986	136	855
少数株主持分	1,254	1,229	24	1,288
純資産合計	9,665	9,164	501	9,165
負債純資産合計	29,455	28,638	816	29,321

## 【キャッシュ・フローの状況】

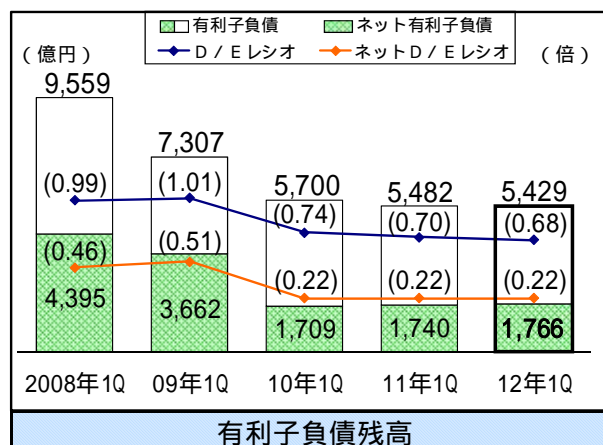
(単位:億円)

	2011年度 第1四半期 (2011年4月1日~ 2011年6月30日)	2012年度 第1四半期 (2012年4月1日~ 2012年6月30日)	前年同期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	107	100	6
(税金等調整前四半期純利益)	(263)	(249)	(14)
(減価償却費及びのれん償却額)	(516)	(479)	(36)
(売上債権の増減額(は増加))	(1,471)	(1,857)	(386)
(たな卸資産の増減額(は増加))	(421)	(506)	(84)
(仕入債務の増減額(は減少))	(921)	(1,008)	(87)
投資活動によるキャッシュ・フロー	365	343	22
(有形固定資産の取得による支出)	(279)	(216)	(63)
(無形固定資産の取得による支出)	(108)	(125)	(17)
+フリー・キャッシュ・フロー	473	443	29
財務活動によるキャッシュ・フロー	596	1,474	877
(借入金の純増減額(は減少))	(1,680)	(1,619)	(61)
(社債の発行及び償還)	(898)	(19)	(917)
(配当金の支払額)	(113)	(115)	(2)
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,742	3,662	79

資産、負債、純資産の状況



(注) 月当たり回転数は、第1四半期の売上高 ÷ 第1四半期末 たな卸資産残高 ÷ 3により算出しております。



当第1四半期連結会計期間(以下、当第1四半期)末の総資産残高は2兆8,638億円と、前連結会計年度(以下、前年度)末から816億円減少しました。円高の進行により約500億円減少しました。流動資産は1兆6,535億円と、前年度末に集中した売上に係る受取手形及び売掛金を回収したことなどにより前年度末から481億円減少しました。たな卸資産は3,793億円と、今後の売上に対応するため、サービスビジネスや携帯電話を中心に前年度末から452億円増加しました。資産効率を示す月当たり回転数は0.84回と、前年同四半期連結会計期間(以下、前年同期)末比0.02回悪化しました。固定資産は1兆2,102億円と、前年度末から334億円減少しました。有形固定資産及び無形固定資産は、当第1四半期での新規取得が減価償却の範囲内に収まったほか、欧州子会社を中心に円高による為替影響により減少しました。

負債残高は1兆9,473億円と、前年度末から315億円減少しました。支払手形及び買掛金は前年度末に集中した売上に対応する支払いにより減少したほか、賞与の支給などにより未払費用が減少しました。有利子負債残高は5,429億円と、前年度末から1,618億円増加しました。運転資金の一部を短期借入金で調達しました。これによりD/Eレシオは0.68倍と前年度末より0.23ポイント悪化し、ネットD/Eレシオは0.22倍と前年度末より0.08ポイント悪化しました。前年同期末とはほぼ同じ水準です。

純資産は9,164億円と、前年度末から501億円減少しました。株主資本が四半期純損失計上などにより339億円減少したほか、その他の包括利益累計額が円高の進行などにより136億円減少しました。自己資本の減少により、自己資本比率は27.7%と、前年度末から0.9ポイント悪化しました。

(単位:億円)

	2011年度 (2012年3月31日)	2012年度第1四半期 (2012年6月30日)	増 減	2011年度第1四半期 (2011年6月30日)
現金及び現金同等物の期末残高	2,666	3,662	996	3,742
有利子負債の期末残高	3,811	5,429	1,618	5,482
ネット有利子負債の期末残高	1,144	1,766	622	1,740
自己資本	8,410	7,934	476	7,877
D/Eレシオ	0.45倍	0.68倍	0.23倍	0.70倍
ネットD/Eレシオ	0.14倍	0.22倍	0.08倍	0.22倍
株主資本比率	31.4%	31.1%	0.3%	29.8%
自己資本比率	28.6%	27.7%	0.9%	26.9%

(注)1. D/Eレシオは、有利子負債の期末残高 ÷ 自己資本により算出しております。

2. ネットD/Eレシオは、(有利子負債の期末残高 - 現金及び現金同等物の期末残高) ÷ 自己資本により算出しております。

## キャッシュ・フローの状況

当第1四半期の営業活動によるキャッシュ・フローは100億円のマイナスとなりました。前年度末に集中した売上に係る売掛金を回収したことにより運転資本は減少しましたが、LSIの減収やハードウェアを中心とした海外ビジネスの不振に加えて、米ドルに対してユーロ安が進んだことによる調達コスト上昇などにより税金等調整前四半期純利益が赤字になったことなどによります。震災影響を大きく受けた前年同期からは6億円の支出減にとどまりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは343億円のマイナスとなりました。データセンター関連を中心とした設備投資により有形固定資産の取得で216億円支出したほか、ソフトウェアを中心に無形固定資産の取得で125億円支出しました。前年同期からは22億円の支出減となりました。有形固定資産の取得による支出が減少したことなどによります。

営業活動及び投資活動によるキャッシュ・フローを合わせたフリー・キャッシュ・フローは443億円のマイナスと、前年同期からは29億円の支出減となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは1,474億円のプラスとなりました。運転資金の一部を短期借入金で調達しました。前年同期には転換社債1,000億円の満期償還があったことなどにより、前年同期からは877億円の収入増となりました。

この結果、現金及び現金同等物の期末残高は3,662億円と、前年度末からは996億円増加しました。

